Osaka University Knowledge Archive

Title	ロシア語語彙の連想関係とロシア語教材
Author(s)	上原, 順一
Citation	外国語教育のフロンティア. 2020, 3, p. 219-226
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/75637
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

ロシア語語彙の連想関係とロシア語教材

Word Association and Learning Materials of Russian

上原　順一

Abstract

The purpose of the study is to explore the possibility of creating learning materials of Russian utilizing some basic notions of word association and specific dictionaries: "Russian Associative Dictionary"(Karaulov Yu.N. et al) describes approximately 500000 association-based speech patterns and real verbal association of Russian native speakers; Learner's associative dictionary of Russian language (Tarasov E.F. et al) is addressed to foreign learners, especially staying out of language environment. In this study the main stress falls on explanation of certain procedure used to extract words which are considered to be important for Russian learners to understand meanings and images of words.

キーワード：語彙、連想、ロシア語、教材

1. はじめに

日常的にロシア語と接していると、語義を求めただけでは何かが足りないと思えることがある。その不足は語やその語のもつイメージが自分にとって未経験であることが一因と考えられる。頭ではわかったかもしれないその語が自分にとってはどういうものかが咀嚼できていないのである。この状況はロシア語の授業でも出くわす。парк「公園」なる語が教科書にあるが、ロシア人のイメージする公園がどういうものなのか、よく説明すれば、「公園」と「散歩」と組み合わせて、どのようなロシア語表現が使えるのかが示しやすい（3節の末尾でふれる）。拙論では、学習者にとって語彙の連想や連想辞典が利用される可能性について、研究の発端を記したいと思う。

2. 連想関係: 学習のきっかけとして

ソビエトの作家パウストフスキーは「言語と自然」という文章で次のように述べている(Паустовский 1957)。

> Я уверен, что для полного овладения русским языком, для того, чтобы не потерять чувство этого языка, нужно не только постоянное общение с простыми

русскими людьми, но общение с пажитями и лесами, водами, старыми ивами, с пересвистом птиц и с каждым цветком, что кивает головой из-под куста лещины.

ロシア語を完全に使いこなすには、また、この言語の感覚を失わないようにするためには、普通のロシア人たちとつねに言葉を交わす必要があるが、それだけではない。草原、森林、川や湖、池、老いた柳も、小鳥のさえずりあいも、ハシバミの茂みにひっそりと咲いている花一本一本も、必要な話し相手である。

（中略）

Я, конечно, знал, что есть дожди моросящие, слепые, обложные, грибные, спорые, дожди, идущие полосами - полосовые, косые, сильные окатные дожди и, наконец, ливни (проливни).

Но одно дело - знать умозрительно, а другое дело - испытать эти дожди на себе и понять, что в каждом из них заключена своя поэзия, свои признаки, отличные от признаков других дождей.

しとしととふる雨、天気雨、一面の雨雲から降り続く長雨、きのこ雨、はげしく地面を濡らす雨、帯状にふる雨、横殴りの雨、極めて強い雨、さらに、豪雨、土砂ぶりがあるのは、もちろん私は知ってはいた（「きのこ雨」については後述）。

しかし、観念として知っていることは、身をもってこれらの雨を経験すること・語のひとつひとつには独自の詩情や他の雨とは異なった特徴が込められていることを理解することとは異なる。

語彙が表現するものごとについては、すべてを自分で経験することは不可能であろう。土地としてのロシア、そして言語としてのロシア語以外に生活の基盤がある私たちにはなおさらである。ただし、他者の経験に触れることはできる。たとえば、芸術作品（とくに、文学作品、映画など）である。これについて、拙速な効率ばかりを求めることは、おそらく筋違いである。ただ、学習者をそのあたりのことがらに導入するきっかけとしては、語彙のイメージを提示することは悪くはないだろう。

この素材として目立たないもののひとつに、いわゆる連想辞典がある。ある語を被験者に示して、それから連想する語を示してもらった結果のまとめである。ロシア語の連想辞典としては、カラウーロフらによって作成された『ロシア語連想辞典』(Караулов и др. 1994) が有名である。刺激語の数は1277語である。この辞書の前書きによれば、この語数はおおむね平均的なロシア語話者が用いる語彙1300-1500に近く、決して少ないとは言えない。

この『ロシア語連想辞典』の著者カラウーロフが述べるところでは、この辞典が役に立つと考えられる読者層がいくつか想定されている。その中には「ロシア語学習者とロシア語教師」も含まれている。彼が説明するように、連想関係にはпереходить -> улицу「横断する -> 通りを」のような、日常的に使うフレーズがそのままの形で記録されていることも多い(Караулов и др. 1994: 213)。つまり、連想関係が、高頻度の言語表現なので、これは学習者に提示する価値があるというのである。また、言語外事実、たとえば歌や映画の名前も連想関係として登場しているので、学習者にロシアの文化を提示するきっかけになろう。

ただ、この『ロシア語連想辞典』を利用していると反応語の多さにとまどうことがある。この辞典には1277の刺激語が掲載されていることは先に述べたが、得られる反応総数は50万件である。『ロシア語連想辞典』などをもとにより多くのデータを含んでいる電子版[PAC]を用いても、刺激語と反応語のペアをすべて精査することは不可能に近い。

しかし、この難点を克服するべく、『ロシア語連想辞典』を基盤にしながら、記述をコンパクトにした教材を作成する試みも見られる。タラーソフらが著した『ロシア語学習連想辞典』(Тарасов Е.Ф. и др. 2017) はその一例だろう。この辞典は、高頻度の刺激語を155をとりあげ、まず、「人」、「家族」、「人の外面」、「身の回りのもの」、「自然」など、15のテーマに分類して、授業での利用も想定しているようである。「人」のテーマには、たとえば、ребятаという語が掲載されている。語義は「子どもたち」、「同じくらいの年齢の人たち、友人たちに対する呼びかけ（みんな!）」である。次に、このребятаを刺激語とした場合の反応語が例文とともに示されている。反応語играют「スポーツをする」の例文としては、Десять ребят играют в футбол …「10人子どもたちがサッカーをしている」がある。これは詩の一節であるが、いわば普通の表現である。また、反応語двор「中庭」を含む例文 Двор был самым любимым местом для игр ребят нашего дома.「中庭はこの住宅の子どもたちがもっとも好きな遊び場であった」も、普通のロシア語である。一方、同じ語を含む "Ребята с нашего двора" は、直訳すれば「私たちの中庭の子どもたち」であるが、連想関係のもとになっていると考えらるのは、歌謡曲のタイトルである。この文化的背景こそが学習のきっかけになってもおかしくない。

3. 連想関係:語をまとめる

話を『ロシア語連想辞典』のほうに戻す。これで似たような試みができないかどうか、考えてみよう（以下で得る連想関係のデータはPACによる）。

дождь「雨」を連想辞典で調べると次のような結果が得られる（反応件数の大きい10語を選んだ）。# で始まる行は筆者の注釈である。

всего реакций на стимул: 102,
反応の件数
различных реакций на стимул: 46,
反応語の種類
одиночных реакций на стимул: 33,
反応件数が 1 であった反応語
отказов: 0.
回答なし

このように得られる反応語は 46 であるが、反応件数の多い 10 語を選んだ。

反応語	和訳	反応件数
1. идет	ふっている	15
# この動詞は、идет дождь「雨がふっている」の表現で、最も多く使われる。		
2. сильный	強い	12
# сильный дождь	「強い雨」	
3. осень	秋	6
4. снег	雪	6
5. грибной	きのこの	5
# грибной дождь	きのこ雨	
6. мокро	ぬれている	4
7. мокрый	ぬれている	4
# мокрый от дождя	「雨にぬれた」	
8. проливной	土砂（ぶり）	4
9. лужи	水たまり	3
10. мелкий	細かい	3
# мелкий моросяший дождь「細かい霧雨」		

この 10 件だけでも、それなりに「雨」と連想関係のある語が得られることがわかる。

『ロシア語連想辞典』にはユニークな特徴がある。それは、刺激語を入力してその反応語を得る普通の手法以外に、反応語を入力してその反応語をもたらした刺激語を得られることである。これを дождь「雨」で示してみよう。

всего стимулов вызвавших реакцию: 988,

この反応語を出した刺激語の件数
различных стимулов вызвавших реакцию: 229,
この反応語を出した刺激語の種類
стимулы вызвавшие данную реакцию один раз: 147,
この反応語を1回だけ出した刺激語の件数
отказов: 0.
回答なし

ここでも反応件数の多い10語を選ぶことにする。

刺激語	和訳	反応件数
проливной	土砂（ぶり）	97
зонтик	傘	94
грибной	きのこの	64
мелкий	細かい	40
погода	天気	39
весенний	春の	38
осенний	秋の	27
зонт	傘	22
капля	しずく	22
частый	ひんぱんな	19

10語のリスト（刺激語дождьから得られる反応語、反応語дождьのもとになる刺激語）を見比べると、3語が共通しているのがわかる。грибной, проливной, мелкиｙである。

грибной, проливной, мелкий -> дождь

でもあり、

дождь -> грибной, проливной, мелкий

でもある。反応語としても刺激語としてもдождьの連想関係に入っているこの3語が、連想関係にとって最重要であり、あるいは、ロシア人がイメージする「雨」の属性としては典型的なものであると言える可能性はないわけではないが、現段階では拙速な判断は避けようと考える。ただ、学習者にとって文化理解を促しうる良いスタートポイントではない

だろうか。

説明が前後するが、パウストフスキーの文章にあったгрибной дождь「きのこ雨」とはなにか。ある辞典には「日が照っているときにふるあたたかい雨、きのこの生育を促す」とある。筆者はモスクワ近郊できのこ取りをした経験を思い出す。たしかにきのこ雨自体は見ていないだろうが、今となっては、きのこから雨が、雨からきのこがイメージできるのは確かである。

これまでは、ある語を刺激語としたとき、また反応語としたときの連想関係を見て、共通する語を選び出した。ただ、実際に調査する連想関係は以上に多くの語を含むことがあり、手作業は効率が悪いので、なんらかのソフトウェアを利用するのが便利だろう。下の図は、Cytoscapeで得られたものである。共通する語は次数（ここでは連想関係を示す矢印の本数）が大きくなるので数値的に選び出すことができる。図はこれらの語を強調表示したところである。

図1.「雨」の連想関係より

反応件数が最大を示す語 1 語のみで連想を図示すると、проливной -> дождь -> идет となる。これは、дождь を中心とした、連想連鎖の最小形と言える。

おおむね同じようにしていくつかの語を連想連鎖の形にしてみた。

пойти -> гулять -> с собакой

出かける -> 散歩する -> 犬と

連鎖の前半пойти гулять「散歩に出かける」と連鎖の後半гулять с собакой「犬と散歩する」は、いずれも通常のフレーズである。

тратить -> время -> вперед
失う -> 時 -> 前方へ
連鎖の前半тратить время「時間を失う」は通常のフレーズである。一方で、連鎖の後半は "Время, вперед!"「時よ、前進!」という映画や音楽作品を想起させる。

кудрявая -> береза -> белая
よく茂った -> シラカンバ -> 白い
「よく茂ったシラカンバ」も「シラカンバが白い」あるいは「白いシラカンバ」も通常のフレーズであるが、береза белая はいわゆる「白樺」を指すことがある。また、"Береза белая" という歌を思い出す人たちも多いだろう。

национальный -> парк -> культуры
国立の -> 公園 -> 文化の
национальный парк「国立公園」はイメージしやすい公園だが、парк культуры「文化公園」はそうではないだろう。典型的にはпарк культуры и отдыха「文化と休息の公園」と名付けられた大規模な公園がモスクワなどにある。上で見たгулять「散歩する」と、この「公園」は、学習者のイメージによっては、いくつかの表現が出現することがある。たとえば、公園に向かって歩くことを散歩と言うのか、公園の中を歩くことを散歩と言うのかである。学習者によっては、公園とはいわゆる児童公園のような比較的小さな公園であり、公園の中を散歩することがイメージしにくい。もしそうなら、ロシア語で頻出するгулять в парке よりもгулять в парк のほうが自然に感じられるだろう。実際のロシア語で多用されるのは前者である。「公園に散歩しに行く」ならば、後者である。

4. おわりに

語彙の連想関係は学術的にはいくつかの面から研究されてきた。これは筆者が簡単にまとめたことがあるので割愛する（文献としては［上原 2016］など）。一方で、ロシア語を学んだり教えたりする場を想定した、連想や連想辞典について言及された業績は目にすることが少なく、浅学を恥じることもある。語彙の連想関係を具体的に調査し、ユニークなものが見つかれば、それをさらに吟味し、その後で、やっとこの学術分野が筆者自身の教育現場にとっても有意義になっていくことであろう。

参考文献

【ソフトウェア・インターネットなど】

Cytoscape のサイト :

https://cytoscape.org/（2019/08/30 閲覧）

なお、本稿では主としてバージョン 3.6.0 以降のリリースを Mac OS 上で利用した。

Shannon P, Markiel A, Ozier O, Baliga NS, Wang JT, Ramage D, Amin N, Schwikowski B, Ideker T.

2003　"Cytoscape: a software environment for integrated models of biomolecular interaction networks", Genome Research 2003 Nov; 13(11):2498-504.

(РАС) Русский ассоциативный словарь:

http://www.tesaurus.ru/dict/（2019/08/30 閲覧）

（この説明は URL: http://tesaurus.ru/ などにみられる）

【露文】

Караулов Ю.Н. и др.

1994　Русский ассоциативный словарь. Книга 1-2. Москва.

Паустовский К.Г.

1957　Язык и природа. // Собрание сочинений в 6 томах. Том второй. Повести. Москва.

Тарасов Е.Ф. и др.

2017　Учебный ассоциативный словарь русского языка. Санкт-Петербург.

【和文】

上原順一

2016　「語彙のネットワークについて - ロシア語の連想連鎖 -」、『言語文化研究』(42)、大阪大学大学院言語文化研究科、25-42。

2018　「ロシア語の語彙連想とグラフの連結成分について」、『言語文化研究』(44)、大阪大学大学院言語文化研究科、19-31。